

SMAIL/ Microsoft Office 365 SMTP OAuth2 認証の利用・設定

2021/06/22 初版

2021/09/10 1 版

— 目次 —

1. 概要	
1) 準備	3
2) 設定	3
3) 動作確認	3
2. 詳細	
①Azure Active Director で OAuth 2.0 クライアント用の[クライアント ID]および [クライアントシークレット]の取得	4
1) 新ナビゲーションメニューから「Azure Active Directory」を表示します	4
2) ナビゲーションメニューから[アプリの登録]-[+新規登録]	4
3) 「アプリケーションの登録」画面で、アプリケーションの名前(任意の文字列)登録	5
4) [認証] - [+プラットフォームを追加] -[WEB]を選択します	5
5) リダイレクト URI を入力し[構成]ボタンをクリックします	6
6) ナビゲーションメニューから[証明書とシークレット]-[+新しいクライアント]	7
7) ナビゲーションメニューから[API のアクセス許可]-[+アクセス許可の追加]	8
8) [委任されたアクセス許可]を選択、アクセス許可	8
9) 概要でクライアント ID の確認	10
②Azure Active Director で[リフレッシュトークン]を取得	10
1) SmailRefreshToken.exe を起動させます	12
2) ブラウザーでログイン許可設定をします	12
③SmailRefreshToken.exe で正しくリフレッシュトークンが取得できれば、 実行フォルダーに、smail_refreshtoken.ini が生成されます	12
④smail_refreshtoken.ini を smail.exe と同じフォルダーにコピーし、smail.exe を起動して、 smtp 認証に OAUTH-XOAUTH2 を選択すれば利用できます	12
3. 動作確認	15
4. OAUTH 関連エラー例	17

1. 概要

1) 準備

Microsoft クラウド サービス | Microsoft Azure のアカウントが必要です。

(本参考例は MSDN の付属の Microsoft Azure を使用しております。)

※実際の設定方法は2. 詳細を参照して下さい。

① Azure Active Directory で OAuth 2.0 クライアント用の[クライアント ID]と[クライアントシークレット]の取得をブラウザアクセスで行います。

② Azure Active Directory で[リフレッシュトークン]を取得
付属の SmailRefreshToken.exe で行います。 認証はデフォルトのブラウザが起動します。

ここまでで、SMAIL で OAuth2 認証を利用するための各種情報が取得できます。

この操作は一度のみです。ただし、クライアントシークレットの期限切れ等が発生した場合は

リフレッシュトークンの再取得 (SmailGmailRefreshToken.exe) が必要です。

2) 設定

③ SmailRefreshToken.exe で正しくリフレッシュトークンが取得できれば、実行フォルダーに、smail_refreshtoken.ini が生成されます。

④ smail_refreshtoken.ini を smail.exe と同じフォルダーにコピーし、smail.exe を起動して、smtp 認証に OAUTH-XOAUTH2 を選択すれば利用できます。

※SMTP ユーザ ID,SMTP パスワードを設定していても無視されます。(OAUTH-XOAUTH2 では必要が無いため)

3) 動作確認

以降、SMAIL は、リフレッシュトークンを利用してアクセストークンを自動で取得し、OAuth 2.0 認証でメールを送信できるようになります。

OAuth 2.0 認証の動作 OS:

OS	Windows Server 2008 sp2	Windows Server 2008 R2	Windows Server 2012	Windows Server 2016	Windows xp	Windows 7 pro	Windows 8.1	Windows 10 pro
OAuth 2.0 認証	△(*1)	○	○	○	×	○	○	○

(*1)

KB4019276 パッチを利用し、TLS1.2 を利用可にすれば動作可能です。(Windows Server 2008 sp2 64BIT 版検証済み)

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4074621/add-rds-support-for-tls-1-1-and-tls-1-2-in-windows-server-2008-sp2>

2. 詳細 (実際の取得方法)

① Azure Active Director で OAuth 2.0 クライアント用の[クライアント ID]および[クライアントシークレット]の取得

Azure Active Directory を操作できる管理者アカウントで Azure Portal(<https://portal.azure.com/>)にログインする。
(本参考例は MSDN の付属の Microsoft Azure を使用しております。)

1) ナビゲーションメニューから「Azure Active Directory」を表示します。



2) ナビゲーションメニューから[アプリの登録]-[+新規登録]をクリックします。



3) 「アプリケーションの登録」画面で、アプリケーションの名前(任意の文字列)を入力し登録して下さい。

例では smail-common とします。

アカウントの種類は、**任意の組織ディレクトリ内のアカウントと個人の Microsoft アカウント**を選択して下さい。

Microsoft Azure

リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+)

ホーム > 既定のディレクトリ > アプリケーションの登録

* 名前

このアプリケーションのユーザー向け表示名 (後で変更できます)。

SMAIL-common

サポートされているアカウントの種類

このアプリケーションを使用したりこの API にアクセスしたりできるのはだれですか?

☐ この組織ディレクトリのみに含まれるアカウント (既定のディレクトリのみ - シングル テナント)

☐ 任意の組織ディレクトリ内のアカウント (任意の Azure AD ディレクトリ - マルチテナント)

☒ 任意の組織ディレクトリ内のアカウント (任意の Azure AD ディレクトリ - マルチテナント) と個人の Microsoft アカウント (Skype、Xbox など)

☐ 個人用 Microsoft アカウントのみ

選択に関する詳細...

続行すると、Microsoft プラットフォーム ポリシーに同意したことになります

登録

※smail は”**任意の組織ディレクトリ内のアカウントと個人の Microsoft アカウント**”をデフォルトでサポートしておりますのでかならずこれを選択して下さい。

これにより各種エンドポイントの{tenant}の値の URI が異なってきます。この場合、{tenant}=common となります。

4) [認証] - [+プラットフォームを追加] -[WEB]を選択します。

Microsoft Azure

リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+)

ホーム > 既定のディレクトリ > SMAIL-common | 認証

検索 (Ctrl+/)

概要

クイック スタート

統合アシスタント

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

トークン構成

API のアクセス許可

API の公開

アプリ ロール

所有者

ロールと管理者 | プレビュー

プラットフォームの構成

Web アプリケーション

Web

Web サーバー アプリケーションをビルド、ホスト、デプロイします。 .NET、Java、Python

シングルページ アプリケーション

ブラウザ クライアント アプリケーションとプロダクト Web アプリケーションを構成します。 JavaScript。

モバイル アプリケーションとデスクトップ アプリケーション

iOS または macOS

Objective-C、Swift、Xamarin

Android

Java、Kotlin、Xamarin

モバイル アプリケーションとデスクトップ アプリケーション

5) リダイレクト URI を入力し[構成]ボタンをクリックします。

<http://localhost:8001/myapp/>

と入力します。(必ずこの URL)



詳細設定

Live SDK サポート

Microsoft アカウント サービス (login.live.com) と直接統合できるようにします。
Microsoft アカウント SDK (Xbox や Bing Ads など) との統合に必要です

はい いいえ

パブリック クライアント フローを許可する

次のモバイルとデスクトップのフローを有効にする:

はい いいえ

Live SDK は必要なので”いいえ”を選択

SmailRefreshToken.exe は、<http://localhost:8001/myapp/>で待ち受けます。ポート 8001 を使用しますので、後で SmailRefreshToken.exe を実行する時に、お使いの PC でポート 8001 のサービスを使っている場合はそのサービスを停止するか、他の PC で行って下さい。

(通常の PC ではバッティングはありません。ウイルスソフトで内部的に proxy で 8001 を使用している場合があるかもしれません。)

[参考]

Google API の場合は、リダイレクト URI に動的生成で SmailRefreshToken.exe の方から自動的に空きポートを選択して指定しておりますので、上記のような制約はありません。

6) ナビゲーションメニューから[証明書とシークレット]-[+新しいクライアント]をクリックします。

説明(任意の文字列:ここでは SMAIL-common とします)

有効期限を選択して下さい。

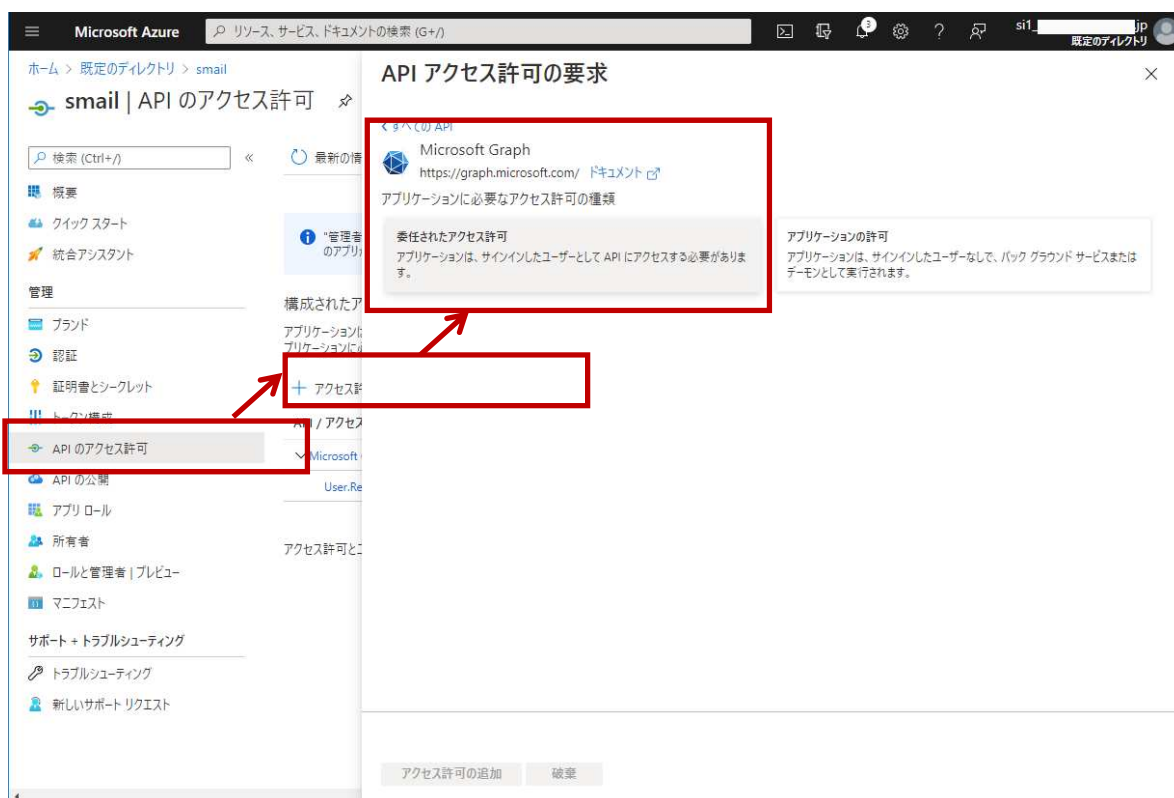


利用したい月数を選択。無期限があればそちらを選択して下さい。期限切れになった場合は、再度6)を実行します。

[追加]をクリックするとシークレット値が得られますので、ここでかみならず、クリップボードに保管してメモ帳等に記録しておいて下さい。この画面を離れるシークレット値はコピー & ペーストできなくなります。もし、そうなった場合は再度、追加でシークレット値を再作成して下さい。



- 7) ナビゲーションメニューから[API のアクセス許可]-[+アクセス許可の追加]をクリックします。「API アクセス許可の要求」画面をスクロールし、「Microsoft Graph」を選択します。

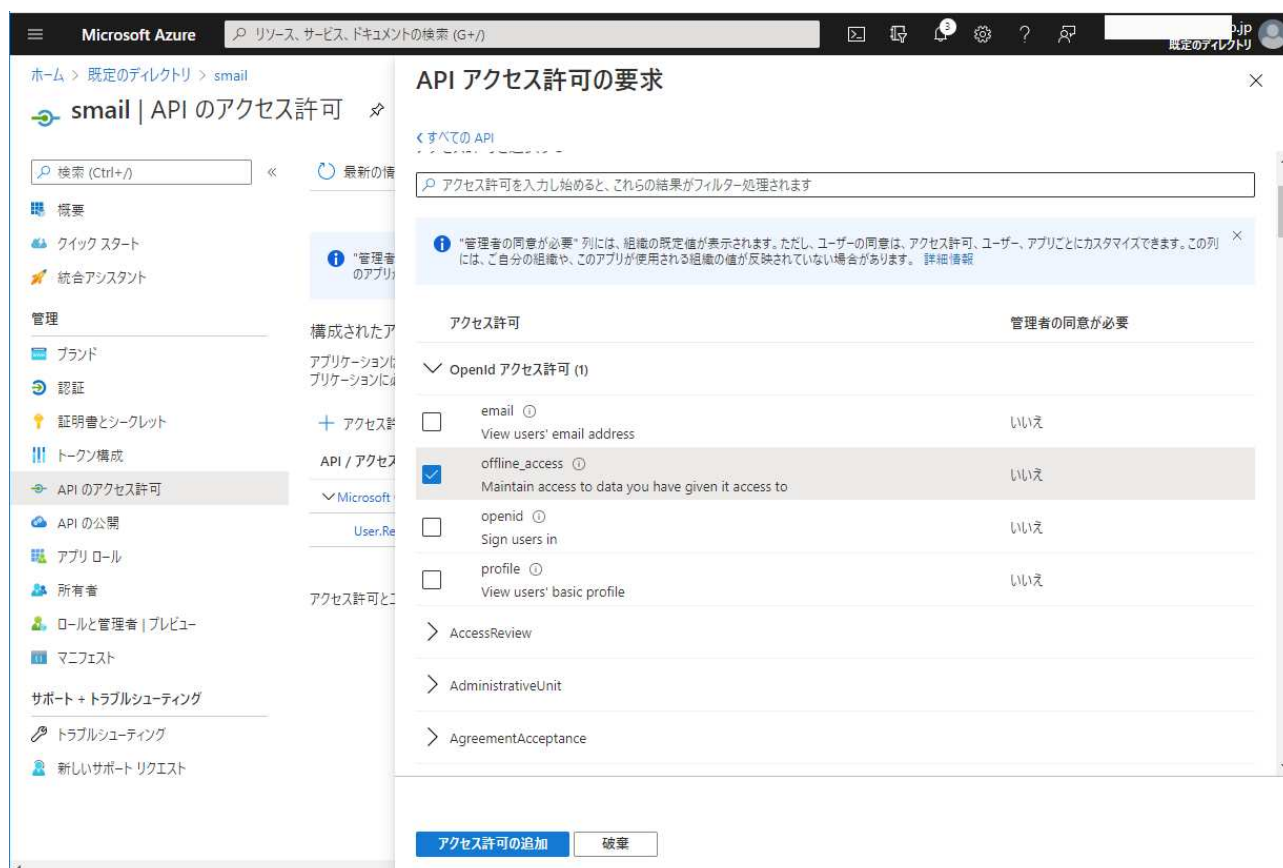


- 8) [委任されたアクセス許可]を選択し、次のアクセス許可をすべて選択します。

POP.AccessAsUser.All

SMTP.Send

offline_access



POP (1)		
<input checked="" type="checkbox"/>	POP.AccessAsUser.All ⓘ Read and write access to mailboxes via POP.	いいえ
SMTP (1)		
<input checked="" type="checkbox"/>	SMTP.Send ⓘ Send emails from mailboxes using SMTP AUTH.	いいえ

設定内容を確認し、[アクセス許可の追加]をクリックします

Microsoft Azure | リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+/)

ホーム > 既定のディレクトリ > smail

🔍 検索 (Ctrl+/) | 🔄 最新の情報に更新 | ❤️ フィードバックがある場合

📌 アプリケーションに対するアクセス許可を編集しています。ユーザーは、既に同意したことがある場合でも同意が必要になります。

📌 *管理者の同意が必要* 列には、組織の既定値が表示されます。ただし、ユーザーの同意は、アクセス許可、ユーザー、アプリごとにカスタマイズできます。この列には、ご自分の組織や、このアプリが使用される組織の値が反映されていない場合があります。 [詳細情報](#)

構成されたアクセス許可

アプリケーションは、同意のプロセスの一環としてユーザーが管理者からアクセス許可が付与されている場合、API を呼び出すことが承認されます。構成されたアクセス許可の一覧には、アプリケーションに必要なすべてのアクセス許可を含める必要があります。 [アクセス許可と同意に関する詳細情報](#)

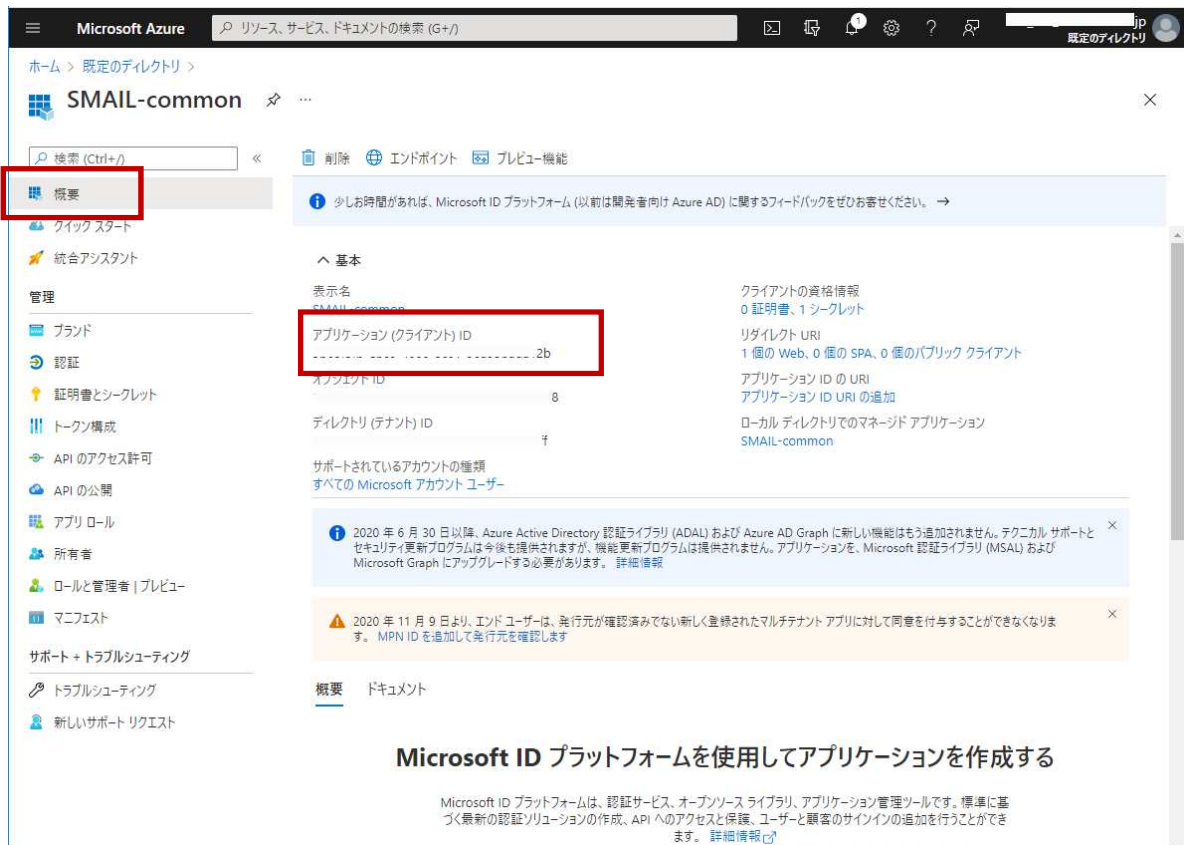
+ アクセス許可の追加 | ✓ 既定のディレクトリに管理者の同意を与えます

API / アクセス許可の名前	種類	説明	管理者の同意が必要	状態
▼ Microsoft Graph (4)				
offline_access	委任済み	Maintain access to data you have given it access to	いいえ	...
POP.AccessAsUser.All	委任済み	Read and write access to mailboxes via POP.	いいえ	...
SMTP.Send	委任済み	Send emails from mailboxes using SMTP AUTH.	いいえ	...
User.Read	委任済み	Sign in and read user profile	いいえ	...

アクセス許可とユーザーの同意を表示および管理するために、エンタープライズ アプリケーションをお試しください。

User.Read は必要ありませんが、デフォルトで設定されていました。削除しても良いです。

9) 概要でクライアント ID の確認



Microsoft Azure

リソース、サービス、ドキュメントの検索 (G+)

ホーム > 既定のディレクトリ >

SMAIL-common

検索 (Ctrl+F)

概要

クイックスタート

統合アシスタント

管理

ブランド

認証

証明書とシークレット

トークン構成

API のアクセス許可

API の公開

アプリ ロール

所有者

ロールと管理者 | プレビュー

マニフェスト

サポート + トラブルシューティング

トラブルシューティング

新しいサポート リクエスト

概要

ドキュメント

クライアントの資格情報

0 証明書、1 シークレット

リダイレクト URI

1 個の Web、0 個の SPA、0 個のパブリック クライアント

アプリケーション ID の URI

アプリケーション ID URI の追加

ローカル ディレクトリでのマネージド アプリケーション

SMAIL-common

2020 年 6 月 30 日以降、Azure Active Directory 認証ライブラリ (ADAL) および Azure AD Graph に新しい機能はもう追加されません。テクニカル サポートとセキュリティ更新プログラムは今後も提供されますが、機能更新プログラムは提供されません。アプリケーションを、Microsoft 認証ライブラリ (MSAL) および Microsoft Graph にアップグレードする必要があります。詳細情報

2020 年 11 月 9 日より、エンド ユーザーは、発行元が確認済みでない新しく登録されたマルチテナント アプリに対して同意を付与することができなくなります。MPN ID を追加して発行元を確認します

Microsoft ID プラットフォームを使用してアプリケーションを作成する

Microsoft ID プラットフォームは、認証サービス、オープンソース ライブラリ、アプリケーション管理ツールです。標準に基づく最新の認証ソリューションの作成、API へのアクセスと保護、ユーザーと顧客のサインインの追加を行うことができます。詳細情報

クライアント ID をコピー & ペーストし、メモ帳に記録して下さい。

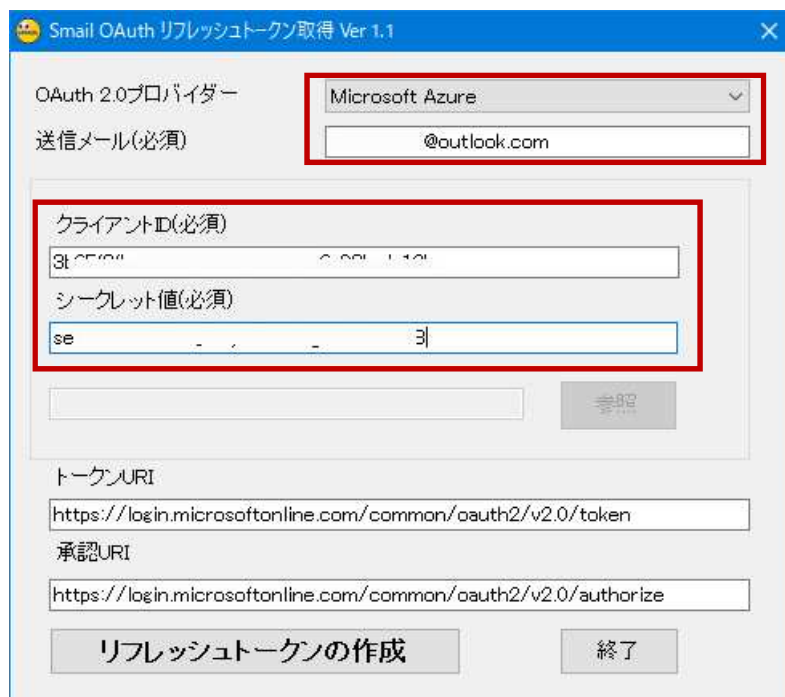
(クライアント ID と 6) のシークレット値の 2 つで、SmailRefreshToken.exe からリフレッシュトークンを取得できるようになります)

② Azure Active Director OAuth API で[リフレッシュトークン]を取得

1) SmailRefreshToken.exe を起動させます。

OAuth2.0 プロバイダーは Microsoft Azure を選択します。

連携したいメールアドレスと取得したクライアント ID、シークレット値を入力します。



Smail OAuth リフレッシュトークン取得 Ver 1.1

OAuth 2.0プロバイダー

送信メール(必須)

クライアントID(必須)

シークレット値(必須)

トークンURI

承認URI

リフレッシュトークンの作成

終了

Smail OAuth リフレッシュトークン取得 Ver. 1.1

OAuth 2.0プロバイダー: Microsoft Azure

送信メール(必須): @outlook.com

クライアントID(必須): [redacted]

シークレット値(必須): [redacted]

トークンURI: https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/v2.0/token

承認URI: https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/v2.0/authorize

リフレッシュトークンの作成 (highlighted with a red box)

終了

[リフレッシュトークンの作成] をクリックします。

(このボタンを押下することで、Microsoft Azure サーバへ承認接続し、リフレッシュトークンを取得します。)

確認ダイアログが表示されますので、[OK] ボタンをクリックして下さい。(リクエストのメールアドレスは正しいか、再確認して下さい)

Email Authorization

リクエストメールアドレス: 1@outlook.com

デフォルトブラウザが開きますのでログインしてアクセスして下さい。
別のアカウントで認証したい場合は一度ログアウトする必要があります。

OK (highlighted with a red box) キャンセル

Microsoft

サインイン

@outlook.com

アカウントをお持ちではない場合、作成できます。

アカウントにアクセスできない場合

戻る **次へ** (highlighted with a red box)

Microsoft

1@outlook.com

パスワードの入力

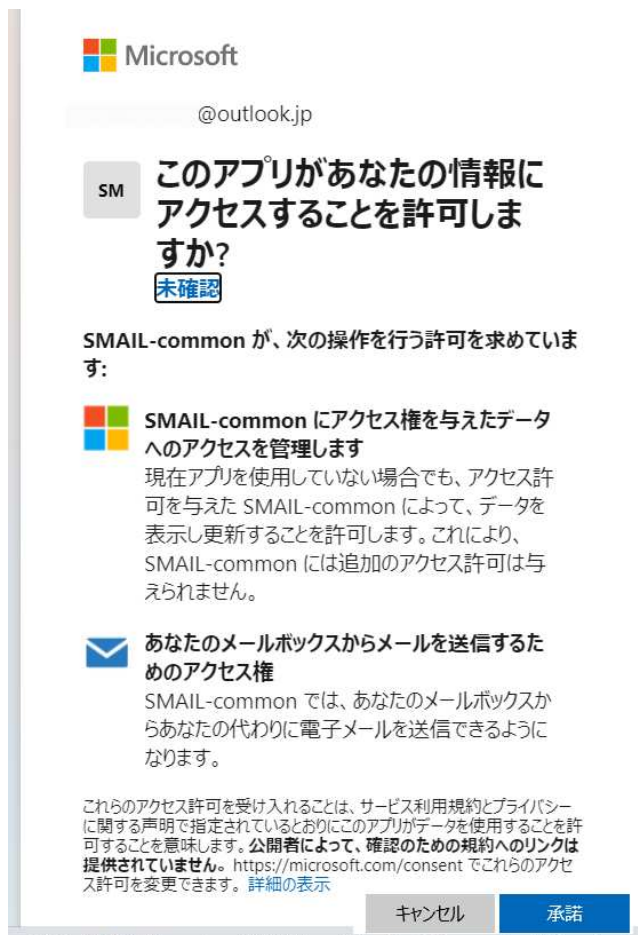
.....

☐ サインインしたままにする

パスワードを忘れた場合

サインイン (highlighted with a red box)

デフォルトのブラウザが起動し、マイクロソフトのログイン画面が表示されます。複数アカウントが表示される場合は、今回連携するメールアドレスを選択するか、別ログインして下さい。



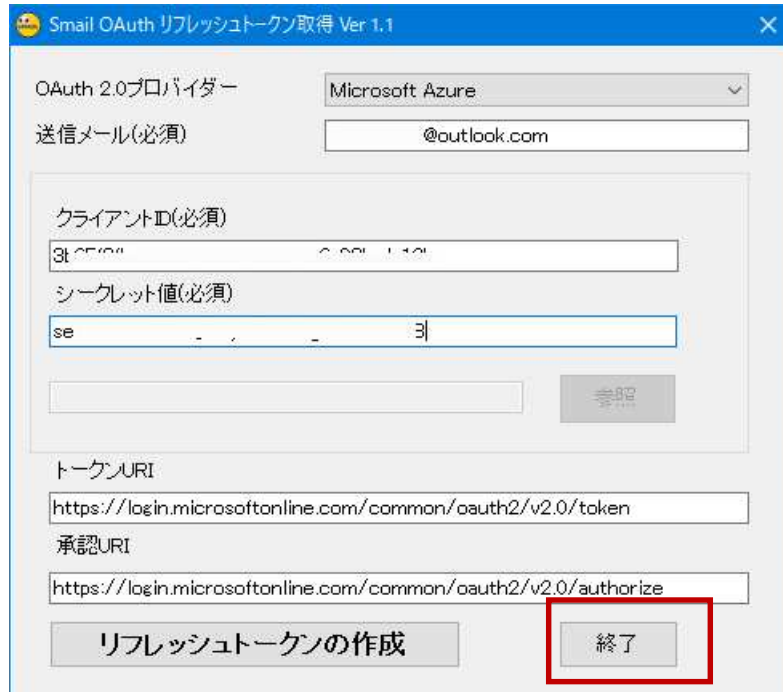
上のような承諾画面が表示されますので、[承諾]をクリックして下さい。

③ SmailRefreshToken.exe で正しくリフレッシュトークンが取得できれば、実行フォルダーに、smail_refreshtoken.ini が生成されます。

- ・成功するとデフォルトのブラウザーに以下のように表示されます。



- ・ SmailRefreshToken.exe 以下のダイアログメッセージが表示されます。
[OK]を押して[終了]させてください。



※リフレッシュトークンの再取得が必要な時はこの操作をします。

通常は一度だけ取得すれば OK ですが、期限切れの時は再取得が必要となります。

尚、ここまでの操作は **SMAIL** を動作させない PC 上で行っても問題ありません。

④smail_refreshtoken.ini を smail.exe と同じフォルダーにコピーし、smail.exe を起動して、smtp 認証に OAUTH-XOAUTH2 を選択すれば利用できます。

- 1) 実行フォルダーにリフレッシュトークン等が記載された INI ファイル、smail_refreshtoken.ini が生成されていますので、smail.exe または smail.ini のあるフォルダーにコピーして下さい。

以後、smail_refreshtoken.ini のファイルが **SMAIL** を実行する PC に必要です。

例) smail_refreshtoken.ini

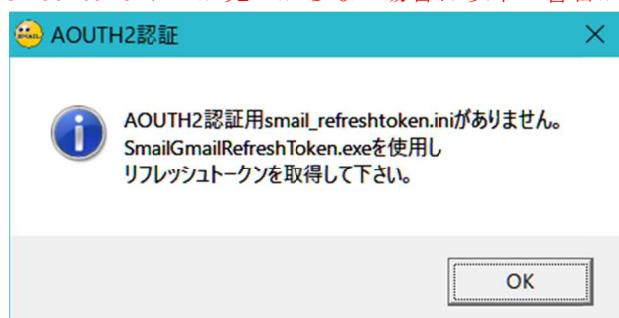
```
[OAUTH2]
UserID=xxxxxxxxxxxxx@outlook.com
ClientID=3bxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
ClientSecret=se4xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxB
RefreshToken=M.R3_BAY-xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
TokenURI=https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/v2.0/token
OuthURI=https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/v2.0/authorize
OAUTH2_TIME_OUT=30
Provider=1
```

- 2) SMAIL.exe を起動し SMTP 認証 : OAUTH-XOAUTH2 を選択して保存して下さい。
office365 は、STARTTLS のチェックが必要です。

■SMTPサーバ
SMTPポート番号: 587 ※SMTPサーバはコマンドラインから指定
SMTP認証: OAUTH-XOAUTH2
SMTPユーザID: .jp
SMTPパスワード: ※保存後、自動的に暗号化されます
SMTP/SSL暗号化: ☒ 使用する ポート番号: 587 ☒ STARTTLS使用する TLS1.3-1.0,SSLv2,v3自動
■POP3サーバ
POPサーバ: dummy ポート番号: 110
POP before SMTP: ☐ 使用する ☐ APOPを使う
POPユーザID:
POPパスワード: ※保存後、自動的に暗号化されます
遅延待ち時間: 300 msec タイムアウト時間: 10 sec
POP3/SSL暗号化: ☐ 使用する ポート番号: 995
設定ファイル名: smail.ini
保存先(E): C:\work\vc\free\smail_v4.29_free_ssl_gui-vc2010\Releas ...
保存(S) 終了(X) https://www.picolix.jp

[保存]して終了して下さい。

refresh token.ini が見つからない場合は以下の警告が出ます。正しく INI ファイルを作製して下さい。



smail.ini に設定が保存されます。(既存の smail.ini に引き継がれます)

以上で、全ての事前準備が終わりです。smail で Microsoft office365 のメール送信が可能になります。

3. 動作確認

例) c>smail -hsmtplib.office365.com -s"TEST MAIL" -fxxxxxxxxxxxx@outlook.com xxx@xxxxxx.xx -d -i

```
#----- SMAIL 4.29 Information By Eva -----
#設定ファイル      : [C:\work\vc\free\smail_v4.29_free_ssl_gui-vc2010\Release\smail.ini]
#POP before SMTP   : 使わない
#APOP              : 使わない
#SMTP 認証         : 使う AUTH XAUTH2 を利用
#設定ファイル (OAUTH 用) : [C:\work\vc\free\smail_v4.29_free_ssl_gui-vc2010\Release\smail_refreshtoken.ini]
#API アカウント    : [xxxxxxxx@xxxxxx.jp]
#SMTP アカウント   : xxxxxxxx@outlook.com
#SMTPS (SMTP over SSL) : 使う [OpenSSL 1.1.1k]
#SSL 方式          : TLS1.3-1.0, SSLv2, v3 自動
#STARTTLS         : 使う
#本文ファイル      : なし
#添付ファイル      : なし
#メールサーバ      : smtp.office365.com
#メール送り元      : xxxxxxxx@outlook.com
#メール送り先      : xxx@xxxxxxxxxx.jp
#サブジェクト内容   : TEST MAIL
#キャラクターセット : ISO-2022-JP
#エンコーディング   : 7bit
Recv:[111 bytes] 220 OS3PR01CA0017.outlook.office365.com Microsoft ESMTP MAIL Service ready at Tue, 22 Jun 2021 0
5:13:49 +0000
Send: EHLO xxxxxxxxx
Recv:[63 bytes] 250-OS3PR01CA0017.outlook.office365.com Hello [xxx.xxx.xxx.xxx]
Recv:[142 bytes] 250-SIZE 157286400
250-PIPELINING
250-DSN
250-ENHANCEDSTATUSCODES
250-STARTTLS
250-8BITMIME
250-BINARYMIME
250-CHUNKING
250 SMTPUTF8
[250 message2 ok!]
Send: STARTTLS
Recv:[29 bytes] 220 2.0.0 SMTP server ready
SSL connection using ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 - TLSv1.2
X509 subject_name: /C=US/ST=Washington/L=Redmond/O=Microsoft Corporation/CN=outlook.com
X509 issuer_name: /C=US/O=DigiCert Inc/CN=DigiCert Cloud Services CA-1
Send: EHLO xxxxxxxxx
Recv:[215 bytes] 250-OS3PR01CA0017.outlook.office365.com Hello [219.75.132.65]
250-SIZE 157286400
250-PIPELINING
250-DSN
250-ENHANCEDSTATUSCODES
250-AUTH LOGIN XOAUTH2
250-8BITMIME
250-BINARYMIME
250-CHUNKING
250 SMTPUTF8
[250 message ok!]
[Try get access token from https://login.microsoftonline.com/common/oauth2/v2.0/token]
[access_token=EwA4A+I3BAAU0+FyEzrG....] ; 認証サーバにアクセストークン要求
Send: AUTH XOAUTH2 ***** ; アクセストークン取得
Recv:[37 bytes] 235 2.7.0 Authentication successful ; XOAUTH2 で接続要求
Send: MAIL FROM:<xxxxxxxx@outlook.com> ; 認証成功
Recv:[21 bytes] 250 2.1.0 Sender OK
Send: RCPT TO:<xxx@xxxxxx.xx>
Recv:[24 bytes] 250 2.1.5 Recipient OK
```

```

Send: DATA
Recv:[46 bytes] 354 Start mail input; end with <CRLF>.<CRLF>
Send: From: xxxxxx1@outlook.com
To: xxxxxx@xxxxxxxx.jp
Subject: TEST MAIL
X-Mailer: SMAIL 4.29
Mime-Version: 1.0
Content-Type: text/plain; charset=ISO-2022-JP
Content-Transfer-Encoding: 7bit
Date: Tue, 22 Jun 2021 14:13:50 +0900
Send:
#//メールヘッダー送信完了 (2.640sec)....
Send:
.
Recv:[146 bytes] 250 2.0.0 OK <S12PR03MB5291274D9C18E46A7FBCEC25C0099@S12PR03MB5291.apcprd03.prod.outlook.com> [Hostname=S12PR03MB5291.apcprd03.prod.outlook.com]
Send: QUIT
Recv:[48 bytes] 221 2.0.0 Service closing transmission channel

C:¥work¥vc¥free¥smail_v4.29_free_ssl_gui-vc2010¥Release>

```

・SMAILはSSL通信にOPENSSLライブラリーを使っていますが、OAUTHのアクセストークン取得部分のみ、googleへのhttpsプロトコルは、標準Windows関数を使用しております。従って、使用端末がtls1.2以降をサポートしている必要があります。

OAuth 2.0 認証の動作 OS:

OS	Windows Server 2008 sp2	Windows Server 2008 R2	Windows Server 2012	Windows Server 2016	Windows xp	Windows 7 pro	Windows 8.1	Windows 10 pro
OAuth 2.0 認証	△(*1)	○	○	○	×	○	○	○

(*1)

KB4019276 パッチを利用し、TLS1.2 を利用可にすれば動作可能です。(Windows Server 2008 sp2 64BIT 版検証済み)

<https://support.microsoft.com/ja-jp/help/4074621/add-rds-support-for-tls-1-1-and-tls-1-2-in-windows-server-2008-sp2>

・プロキシ対応です。httpsアクセスに端末のプロキシ情報を利用しています。

4. OAUTH 関連エラー例

エラー番号 2 8 が発生した時は、オプションに `-d` を付けて通信内容をコンソールに表示して詳細なエラーを取得して下さい。

1. Error HttpSendRequest [12157]

```
[250 message ok!]  
[Try get access token from https://oauth2.googleapis.com/token]  
Error HttpSendRequest [12157]  
ERR-0028:OAUTH 認証サーバからアクセストークンが取得できませんでした。
```

12157 セキュリティ・チャネル・エラー

SSL ライブラリのロード中に、アプリケーションに内部エラーが発生しました

2. Error HttpSendRequest [12045]

```
[250 message ok!]  
[Try get access token from https://oauth2.googleapis.com/token]  
Error HttpSendRequest [12045]  
ERR-0028:OAUTH 認証サーバからアクセストークンが取得できませんでした。
```

12045 無効な認証局です

サーバーSSL 証明書は、未知または無効な認証局から発行されたものです。

PC が TLS1.2 をサポートしていない場合のエラーです。

3. Error HttpSendRequest [12029]

```
[250 message ok!]  
[Try get access token from https://oauth2.googleapis.com/token]  
Error HttpSendRequest [12029]  
ERR-0028:OAUTH 認証サーバからアクセストークンが取得できませんでした。
```

12029 サーバー接続の試みに失敗しました

プロキシ設定が間違っており接続できない場合もこのエラーが出ます。

4. Error InternetCrackUrl [12006]

```
[250 message ok!]  
[Try get access token from https://oauth2.googleapis.com/token]  
Error InternetCrackUrl [12006]  
ERR-0028:OAUTH 認証サーバからアクセストークンが取得できませんでした。
```

12006 不正な URL です

smail_refreshtoken.ini 等が参照できず TokenURI が参照できない場合発生します。

もしくは smail_refreshtoken.ini 中の TokenURI の URL の記述が間違っています。